

虹

2024年4月

No. 227



2024年3月 大正池から見る穂高連峰

NPO 法人さいたま山に親しむ会

〒364-0035 北本市西高尾 3-167 ヒライビル 101

Tel Fax 048-592-2814

Eメール info@saitama-mt.jp

ホームページ <http://www.saitama-mt.jp/>

NEWS

★2024年度年会費の納入ありがとうございました。3月24日（日）までに現金でお支払い頂いた方には、領収書を同封していますのでご確認ください。

★来月号の会報発送は4月25日（木）の16：00～です。

★20周年記念誌を発行致しました！今年の3月末までの全ての山行一覧を掲載しています。残念なことに（皆さんが見る中でもっと見つかったら怖いですが・・・）間違いがあり、2018年、2019年の正しいリストを同封しますので、お手数をおかけしますが、貼り付けてご覧ください。

冬のパチンコの記録

上野はるか

年末年始の2週間で穂高から槍のパチンコに行ってきました。この山行の内容や価値について、説明するのが難しいので特に書くつもりもなかったのですが、何人かの方から興味を持って質問してもらったので、頑張ってみようと思います。

まず大前提として、北アルプスやその他の山々には地図上に登山道のあるルート以外に、バリエーションルートと言われるロープやクライミング道具を使わないと登れない岩場や岩尾根があります。穂高や槍周辺で有名な場所を挙げると「屏風岩」、「前穂の北尾根・東壁」、「北穂高の滝谷」、「槍の北鎌尾根」などです。聞いたことのある名前があったでしょうか？とくに屏風岩は上高地から横尾へ向かう途中に左手に現れる大岩壁なので、見たことがある方も多いのではないのでしょうか。前穂北尾根は涸沢カールから左に見えるゴジラの背中みたいな岩尾根。滝谷は槍穂縦走した方は見たはず。北穂の西側に黒々とそびえる岩壁群です。北鎌尾根は昭和の大登山家の「加藤文太郎」や「松濤明」が遭難死したことで有名ですね。今挙げたバリエーションルートは夏に登る人はある程度います。3～5月の春山シーズンに登る人も夏よりだいぶ少ないが、います。さらに12～2月の厳冬期に登る人は、もはやそのシーズンに数パーティになってきます。厳冬期は天候が荒れることも多いし、まだ雪が締まっていないのでラッセルにかなり時間を要するし、1回の山行に5日くらいかかるので、そもそもそんなに仕事を休めない人が多いのもあるでしょう。

パチンコ・継続登攀という言葉

パチンコという言葉はパチンコ玉がパチパチと壁を往復する様子に例えて、上に挙げたような岩場を継続して登って降りてを繰り返していくことを指します。いつから使い始めた言葉なのか分かりませんが、冬の登攀をやっている人の間のみで使われる言葉で、全然一般用語ではありません。「パチンコ＝継続登攀」と説明されますが、継続登攀という言葉は、例えば「谷川岳一ノ倉の継続登攀」「八ヶ岳西面の継続登攀」「瑞牆の継続登攀」というように色々な岩場で2つ以上のルートを登って降りてと繰り返すようなクライミングに使います。一方でパチンコというと、その舞台は槍

穂高をイメージする人が多いように思います。それだけ、昔からこのバリエーションルート密集地帯である槍穂で継続登攀が為されていたためでしょう。

なんでわざわざ登って下りてを繰り返すんだ？一本登って山頂に立てれば良いじゃない、と思うでしょうが、これらの継続登攀はより大きな海外の山に登るための練習なのです。日本の岩場には1000mの大岩壁はありませんが、海外の山にはある。それらの山に登りたいなら、500mの壁を2往復するしかない、そんな経緯で広まったのが、継続登攀。私たちも春のアラスカを想定して、今回のパチンコを計画しました。

ちなみに、12～2月の厳冬期の穂高や槍のバリエーションルートに行く人が1シーズンに数パーティならば、それらのバリエーションルートを複数継続させたパチンコをやる人ってどのくらいいるの？！と思うでしょう。だいたい1シーズンに1、2パーティが挑戦する課題だと思います。トライはするが、なかなか穂高の稜線を越えて槍に至り北鎌尾根を下ってゴールできるパーティはいないのです。涸沢岳の西尾根を下ったり、槍から飛騨沢を下ったり、いくつかのエスケープルートがあります。実力よりも天気の違いが大きいと思います。今回のパチンコを終えて、パチンコで北鎌尾根まで継続したパーティはここ10年いなかったよなあ。とか、女性でやったのはこれまでにないでしょ、すごいね。なんて言われたりしていますが、今回は本当に天気に恵まれたし、穂高の滝谷、槍の西稜という2つの計画した登攀を悪天候のためパスしたので、心残りも多く、素直にそれらの言葉を受け取ることができません。それに、本来2週間山に入るなら2週間分の食料を担いで入山しなければなりません。私たちは今回穂高岳山荘の冬期小屋に1週間分の食料を事前にデポしました。パチンコは3人でやるチームもあり、3人だと1人あたりの団体装備の重量が少なくできますが、今回は2人。しかも1人は女。現実的なプランにしたかったので、今回はデポ作戦を取りました。パチンコ初日は1週間分の食料や燃料、クライミングのギア類やシュラフやテントで、1人26キロでスタートしました。事前デポ内容は5キロだったので、それを加えての前半戦は、私には無理だっただろうなあと思います。

来年は、女性3人チームで、デポなしで挑戦できたらいいなと考えています。2人でも3人でもクライミングギアの量は変わらないし、3人テントならば、あたたかい真ん中に寝る人だけは薄手のシュラフにする、ということもできます。2週間分の食料を持って、1人30キロ弱でスタートできる算段です。

前置きがかなり長くなってしまいました・・・。記録の部分はその日その日に書いた日記をもとに簡単に書きます。2週間の山行を4パートに分けて、まとめました。

山行の記録

① 12/24～27【鎌トンネル～横尾～屏風3ルンゼ～前穂北尾根4,5の科尔】

初日は釜トンネル入り口までバスで行き、横尾まで。今回は屏風の1ルンゼに登るか3ルンゼに登るか直前まで迷っていたが、24日夜から25日はずっと雪が降っていたので、谷の広い1ルンゼでなく3ルンゼを選択。

※屏風岩には三本の岩溝があり、1～3ルンゼと呼ばれる。降雪直後のルンゼは雪崩の危険が増す。とくにルンゼが広いと雪崩の規模も大きい。

3ルンゼは2ピッチのアイスクライミングで抜けた。スクリュ-4本しか持ってきていないので心配だったが、許容範囲のランナウトしつつ突破。氷パートを抜けて2日目はカモシカ尾根の手前まで。この日はまる1日雪が降っていて、うざかった。

※スクリュ-・・・氷にねじ込むステンレスの棒状のギア。

※ランナウト・・・中間支点から次の中間支点までが遠いこと。支点と支点の感覚が遠ければ遠いほど落ちた場合の落下距離や衝撃が大きくなるので怖い。

3日目は前穂の北尾根まで上がれるだろうと思っていたが、カモシカ尾根というのがなかなかラッセルを要するし、垂直の藪漕ぎみたいな箇所もありロープ出すし時間かかる。やっとこさ屏風の耳とかいうピークに出て前方を見た時、北尾根八峰の高さに驚いた。しかも屏風の耳から頭までもちょっと悪そうだし…。これまで慶応尾根から北尾根にアプローチしたことしかなかったけど、屏風を登るとこんな時間かかるんだなぁと実感。3日目は屏風の頭を下った広めの斜面で雪洞泊。

※屏風の岩壁からは、カモシカ尾根という枝尾根を登って屏風の頭を経て北尾根に合流する。パチンコでは、山行序盤の一番重量が重い時期にクライミングは大変なので、慶応尾根という徳沢から登って来られる簡単な尾根を選択するパーティも多い。

4日目の朝は雪洞の天井が沈降して目の前に迫ってきていて最悪の朝だったけど、夜が明けてくると風もなく穏やかな快晴でだんだん気分が上がる。しかも八峰からは

先行者のトレースがあり万歳して喜んでしまった。慶応尾根から前穂の北尾根に来ているパーティがいるようだ。ここで、1時間休憩してバリバリに凍ったテントやシュラフを広げて干した。トレースがあると速いこと速いこと。14時頃には先行パーティが4峰を登っているのが見えた。4峰を越えて3・4のコルで2パーティ幕営するのも狭そうなので、今日は4・5のコルで良いか～ということになる。整地やブロック積みなどこれまでよりもテント設営に時間の余裕があり嬉しい。



※前穂の北尾根は、下から8峰、7峰、・・・2峰、1峰というようにギザギザのピークにそれぞれ名前が付いている。4・5のコル、というのは5峰と4峰のピークの間にある鞍部のこと。基本的にはコルには雪が溜まって少し広くなっているの、幕営適地。コルは風が吹き抜けるので、スコップで雪のブロックを切り出して、数段積んで暴風対策をする。

翌日はいよいよ前穂北壁 A フェース。相方に、荷物からも解放されるし、登り始めたらたぶん楽しいんだけどさ、冬壁パートは緊張するなあ。って話したら、俺も、と言っていた。

※前穂の北壁は3・4の科尔から下降して取り付く。その際クライミングギア以外は科尔に置いて行ける。北壁を抜けると前穂の山頂なので、全ての装備を担いで登れば無駄がないが、山頂から1時間程度の下降で3・4の科尔なので全装備を担いで登る人は聞いたことがない。クライミング内容も、装備を担いで登るにはかなり難しい。

私たちの下山日の頃、1月の正月明けにパチンコにトライした友人がいたが、前穂での登攀を終えて3・4の科尔に戻ってきたら、置いておいたでかいザックがまるまる消えていて敗退したと悔しがっていた。さすが穂高の風。クライミング道具を除いても20キロ近くあるはずのザックだが、風で飛ばされて落ちていったようだ。私たちは一応ハーケンを打ってザックを2つ繋げておいたが、こんな風にどんな小さな油断や失敗でも突然の窮地を招く世界だ。敗退するのは無念でも仕方ないが、彼は敗退する中で山中2泊し、シュラフがなかったのだから、相当つらい。でもこういう死なない程度の失敗は、2度と同じ失敗をしないことに繋がる。

(つづく)

今後の EVENT

◇市民ハイキング

2024年4月20日(土) 桜の名所 光城山から長峰山

4月下旬、光城山(ひかるじょうやま)の山裾では約1500本のソメイヨシノが登山道に沿って山頂へと咲き上がります。光城山は長野県安曇野市にある桜の名所で、低山ながら北アルプスの大展望が楽しめます。光城山と長峰山の縦走ルートでは、常念岳や鹿島槍ヶ岳、白馬三山など雪の残る北アルプスの雄大な山々を望むことができます。長峰山までの縦走が心配な方は、光城山までの往復コースでも大丈夫です。下山後の豊科温泉の入浴もお楽しみに！

2024年6月1日(土) 大霧山と天空のポピーまつり

東秩父にある大霧山はその昔むさしのに住んでいたと言われるだいらぼっち伝説のある山です。今回は旧定峰峠から粥新田峠を経て大霧山に登り、二本木峠から下山するコースを歩きますが、周辺には笠山や釜伏山という名の山が連なります。だいらぼっちの巨人が武蔵野から羽黒山に向かう途中、秩父の山に差し掛かり、定峰峠に腰をかけ、かぶっていた傘を置き、釜で粥を煮て食べたそう。この時笠を置いた場所が笠山に、食べた場所が粥仁田峠に、食べ終わって釜を伏せたのが、釜伏山に、二本の箸を刺した所が二本木峠に、荒川の水を汲んで吹きかけた山が大霧山にそれぞれなると言われています。こんなユーモラスな伝説に思いを馳せながら、秩父の隠れた名山を楽しみましょう。コースの途中にある高原牧場の一面のポピー畑「天空のポピー園」も圧巻です。

今回はポピー園をゴールとするコースと、さらに稜線を進んで二本木峠から内出バス停まで下るコースとを選ぶことができますので、体力や当日の体調に合わせてお選びください。

◇リーダー山行

山行報告

- *3. 3 山スキー（平標山ヤカイ沢）
- *3. 10 雪山のセルフレスキュー訓練（谷川岳周辺）
- *3. 21 雪山（赤城山）
- *3. 24 山スキー（巻機山）
- *3. 24 雪稜（磐梯山東壁右岩稜）

山行計画

- *4. 6 雪上訓練（谷川岳マチガ沢）
- *4. 7 岩トレ（二子山）
- *4. 13-14 山スキー（月山周辺）
- *5. 3-6 山スキー（立山周辺）

◇山荘利用予約状況

那須高原・北蓼科にあるログハウスはNPOの会員であれば、いつでも何泊でも、自由に宿泊できます。小さなお子さんの賑やかな声や、大声での談笑もここだったら気になりません。ご家族、友人、ご近所お誘いあわせの上、ぜひご利用ください。

那須山荘	蓼科山荘
4月1、2日	
4月13日、20日、28日、30日	
5月1～4日	
5月11日、18日	
6月1～28日	

◇スポーツ教室

スポーツ吹矢	クライミング	健康ヨガ
4月5日（金）	毎週火曜日と木曜日	4月12日（金）
4月12日（金）	現在は参加費をいただく教室	4月19日（金）
4月19日（金）	としてではなく、サークル活	
4月26日（金）	動的に運営しています。	

REPORT

2月29日 石垣山から小田原城

戦国時代末期、豊臣秀吉が小田原の北条攻めを企てた際に、一夜にして城を築いたという伝説が残る、その名も石垣山一夜城。それと対峙する小田原城は、関東一円に勢力を誇った北条氏の本拠でした。この2つの城を歩いて繋ぎ、それぞれの城から対峙する城を眺めるという面白い山歩きでした。とりわけ、歴史ロマンを感じながら、降り注ぐ早春の日差しの中、両側にミカンがたわわに実る斜面を、小田原城を目指し下って行く道は楽しかったです。

上野 司

3月5日 越生アルプス

休養明けの5カ月ぶりの登山は3月5日の越生アルプスでした。

黒山三滝を見ながら300m位を一気に登り関八州展望台から武蔵の国を眺めましたがあいにくの曇り空でこの一州しか見られないのは残念でした。反対側には葉を落とした木々のあいだに秩父の盟主武甲山が大きくそびえ、削り取られた北側斜面の三角形が雪で白く輝いていました。

奥多摩方面の山々も白く薄化粧をして啓蟄を過ぎたとはいえ未だ冬山の感です。展望台で昼ご飯を食べましたがこの日は西から南岸低気圧が追いかけてきており、天候の悪化を懸念して食事もそこそこにアルプスの尾根歩きを急ぎ傘杉峠や顔振峠へのアップダウンを繰り返しながらスタートの黒山へ下山しました。三月にはいって里ではいろいろな花が咲き新しい芽が吹きはじめたとはいえ、奥武蔵の山々は春は名のみでじっと待っているかのごとき様子です。

しかし、顔振峠へ来ると満開の数本の河津桜と梅林の梅の競演は冬から春への季節の移行を告げる見事な風景でした。

下山の後には越生梅林を見学し、梅の湯で汗を落として帰途につきましたがそのころから雨も降り始め、登山中に合羽を必要としないのは幸運でした。

畑で春野菜を収穫する中、アルプスの名を聞くだけで心躍らせての参加で、久しぶりに会うで皆さんから元気だったかと声かけられ、張り切って歩きましたが5時間歩くのが精一杯。もう少し鍛えなおしてまた次の山を目指したいと思います。

渡辺 均

3月13日 ほったらかし温泉と棚山

ほったらかし温泉から登り始め、山の神の祠がある山の神コースを行きました。落ち葉を踏みしめ、すべらないように気を付けて登っていきました。開けた所で足を止めると、早春の山々がとてもきれい、他の季節もステキだろうなーと景色に力をもらい気持ちよく歩きました。雪のある所では、歩き方等々教えてもらいロープをつたって頂上へ、全員頂上に着き風をよけてお昼、あったかいスープもいただきお腹も満足、気を引きしめての下山でした。下山後は、楽しみにしていた、ほったらかし温泉です。あっちの湯の露天風呂に入ると、富士山がきれいに見え、山梨の町を眼下に気

分は最高！！落ち葉の道、川を渡ったり、雪の斜面、と変化のある棚山ハイキング楽しかったです。ありがとうございました。

F. O

3月16～17日 西穂・丸山と上高地

雪のある時期に上高地と西穂高・丸山をめぐる山行きは、遠方でもあり上高地、穂高両方と温泉宿に宿泊という一人ではなかなか行けない贅沢な企画でした。。

参加者は男性2名、女性3名。スタッフ2名。

関越道から上信越道、更埴JC経由して松本ICで降りからタクシーに乗り換え、釜トンネル入口へ。これだけの長い距離は単独で行く時、運転は大変なのですが、スタッフの2人が交代で運転してくれました。

釜トンネル付近は雪景色、路面は除雪されていたのでアイゼンは置いていくことに。個人的には雪が深い時の事を考えてワカンも用意したのですが、アイゼンのみ一応持参しました。タクシーの運転手さんからはトンネル出入口凍結、工事の車両が通る、トンネル内は電気があるので明るいなどの情報をいただきました。釜トンネルを歩いて通るのでワクワクでした。ヘッドランプは全く必要なく路面は舗装でした。先行3名ほどのグループもいましたがほぼ私たちだけでした。最初の歩道部分慣れてくると真ん中も歩く事ができます。途中轟音と共に工事用トラックが通過する時は歩道に避難。トンネルは緩い登り坂でドンドン進みますが、歩き始めなのと標高もちょっとあるのでついていくのがやっとでトンネル内の出口まで～mの表示を目当てにひたすら歩きます。釜トンネルは1.5kmくらい、次の短い上高地トンネルを抜けると全く明るい世界。ここで休憩。登り坂が続いたのでかなり暑くなったので衣服の調整をしました。

路面が雪になりましたがかなり歩きやすく、カーブを過ぎると穂高連峰が見えます。思わず写真を撮り始めます。すぐに大正池。名物だった立ち枯れの木はなく、皆さんもそれぞれに今までの風景を思い出していたようです。

遊歩道を歩くと絶景の雪景色です。大正池と西穂高から吊り尾根から前穂高へ続く稜線が大迫力、振り返ると焼岳。本当に贅沢な景色の中を歩きます。大正池ほとりに着くと2、3のグループがいる程度で夏の混雑とは別世界。風もなく、道も歩きやすく静かで、皆さんもぜひ来て欲しいなと思いました。ガイドさんに連れられたスノーシューの団体もいましたが、アイゼンいらず、むしろ登山靴で歩いた方がずっと楽しい感じがしました。歩くにつれて穂高がぐんぐん近くなり、霞沢岳も間近に迫り、田代池を過ぎて進むと梓川に沿った遊歩道を歩きます。初めて日本アルプスに来た時梓川の清流の美しさに驚いたものです。

河童橋に到着。風景に浸り、写真を撮って、昼食は小梨平のキャンプ場のベンチで取りました。帰路は帝国ホテルの近くを通る道を行き、大正池を通ります。釜トンネルはそれぞれのペースで自由に歩きましたが、温泉が待っているためかかなり速いペースでした。

タクシーに乗り、沢渡でワゴン車に乗り安房峠を通過して、奥飛騨温泉郷の平湯温泉の「平湯の森」というホテルに宿泊しました。人気の日帰り温泉のためか駐車場は各県ナンバーの車でいっぱい、整理の係の方がいました。

13も露天風呂があるという湯治場の宿舎が複雑につながった、合掌づくり風の趣のある綺麗なホテルでした。宿泊棟は奥まった棟にありますが、浴場へは近道もあり、部屋のすぐ近くにプライベートの浴室もあります。ここがなかなか凝ったづくりで空いていれば自由に入ることができました。

夕食まで時間があつたので温泉にゆっくり浸かることができ疲れが十分取れました。従業員の方も感じが良かったです。

朝食は7時半、新穂高ロープウェイが9時ということで8時出発に。途中のコンビニで昼食調達の予定が開いてないのでちょっと困りましたが、丸山下山後に西穂高山荘で名物のラーメンの計画に変更。

ロープウェイの駅にはすでに始発狙いの観光客、登山客で混んでいましたが臨時便が5分おきに出たので、数便のうちに乗れました。観光客は流石に中国、韓国も。登山口はなかなか寒く、天気も下り気味なので皆さん着込みました。散策路を過ぎてアイゼンなしで進みます。樹林地帯なので風は避けてくれます。登りがキツくなるところでアイゼン装着。様々なアイゼンなので装着はかえって難しくスタッフが手伝います。気温が低くなったので素手にならないように注意して作業しますが、体温は高くなったので着込んだものは調整。

急登を登り続けると西穂高山荘到着。山荘に入るにはアイゼンを脱がなくてはならないので、丸山まで続けて登ることに。10分程度ということですが、傾斜があり稜線に出ると強風の中を進みます。目出し帽が見つからなかったので帽子のみ。強風と雪がビシビシつぶてのように顔に当たります。思わず顔を手で覆いながら登り続けます。視界も効かず昨日の晴天での散歩とは大違いです。それでも丸山に全員無事到着。記念写真を撮って早々に山荘に下山を開始。ジャケットや手袋も凍りつく寒さです。

山荘に到着すると食堂は混んでいましたが、アイゼンを外すのもコツがあるのでありスタッフが懸命に外す作業に。お汁粉または味噌ラーメンを食べる時にはホッとしました。さっきまで凍りついていた雨具が一拳に溶けて、かなりびしょびしょの状態になったりしました。山荘で温かいものが食べられたのは本当に幸せでした。なかなかの登山でしたが体調を崩す人もなく、元気に下山を開始します。樹林地帯なのでペースが上がります。急斜面では注意して歩くより、お尻で滑るシリセード？の方が楽しく、途中から女性3人はたびたび滑って楽しんで下山しました。ロープウェイ駅にも早く到着。

余裕を持って下山でき、温泉では1時間取ってもらったので体を温め休むことが出来ました。途中高速道で思わぬ渋滞に巻き込まれてしまいましたが、スタッフの方の長時間運転のおかげで無事解散しました。穏やかな上高地の雪の絶景と、西穂高での雪山体験、温泉と満喫できた旅でした。ありがとうございました。

前田一夫

3月21日(木) 鋸山

首都高の渋滞の影響で、日本寺下の駐車場に車を駐めて歩き出したのは10時を回っていました。今日目指す鋸山は、周辺の土地のかなりの部分が日本寺の境内になっており、日本寺の参拝から今日はスタートです。日本寺の石段を10分ほど登ると、

奈良や鎌倉の大仏を抜く高さ 30 メートルを超える大仏が見えてきました。房州石の壁を彫って作られた大仏は見る者を圧倒します。

そこから石段を登ること 30 分で日本寺の頂上、その後北口出口から一度外に出て、鋸山の頂上を目指します。石切場跡を下から眺めながら登ること 1 時間で展望台、そこから傾斜の緩くなった道を辿り、ついに鋸山の山頂に着きました。日本寺の参拝者に比べると、山としての鋸山の山頂まで登る人はわずかで、かなり大変な道ですが、観光客ではなく登山者である私たちとしては登らないわけにはいきません。しかし、展望台からの東京湾の展望は素晴らしく、千葉の山の良さを改めて感じました。

下山後、立ち寄った金谷の食事処&温泉も素敵で、美味しい海鮮丼とコーヒー色の温泉を堪能しました。

上野 司

3月23日（土） 三浦アルプス

三浦半島の付け根部分にある山脈は、三浦アルプスと名付けられています。今や日本各地にあるご当地アルプスの中でも、東京湾から相模湾まで歩き最後は森戸海岸のビーチでゴールできるので、なかなか良いコースだと思います。当日はあまり天気の良い予報でしたが、案外太陽の光がさす時間もあり、昼休憩も大きなマテバシイの並木の下でとったので雨に悩まされることもなく、全員で歩き切ることができました。三浦アルプスの山道部分を抜けて 20 分ほどで森戸海岸ですが、そこまでの車道で、「こんなに雨降っていたんだ〜」と気づくくらい、山の中は木々に覆われて、良いアーケードになってくれていました。でも次回はぜひ展望の良い日に、晴れた海や富士山を眺めながら歩きたいコースですね。電車でもアクセスしやすいのでおすすめのコースです！

上野はるか

山旅トピックス

1. 全国山の日協議会は、2025年の第9回「山の日」全国大会の開催地を福井県とすることを決めた。「山の日」全国大会は、国民の祝日「山の日」が施行された2016年8月11日に第1回が長野県上高地で行われ、以後栃木県、鳥取県、山梨県、大分県、山形県、沖縄県で開催されてきた。なお、今年の第8回は東京都で開催される。
2. ユーラスエナジーホールディングスにより北八甲田で計画されていた「みちのく風力発電事業」が白紙撤回となった。これは6市町約1万7300haの想定区域に、出力4000～5000kw級の風力発電を120～150基設置するもので、陸上風力では国内最大級の規模であった。八甲田山ガイドらが中心となり、自然を守るため計画中止を求める市民団体が結成され、その後の署名活動の広がりや各種選挙を通じての反対アピールを受け、事業者が計画の中止に追い込まれたものだ。
- 3.立山連峰の玄関口・室堂ターミナルのランドマークとも言える「ホテル立山」が、立山黒部貫光から星野リゾートに譲渡されることで基本合意した。立山黒部貫光は、老朽化したホテル立山を譲渡した後は、運輸事業に経営資源を集中させていく方針だ。
4. 植村直己の出身地・兵庫県豊岡市が主催する植村直己冒険賞の第28回受賞者が、溪谷探検家の大西良治氏、田中彰氏に決定した。両氏は2023年冬にネパールヒマラヤの人跡未踏の大峡谷、セティ・ゴルジュを探検し、地形の成り立ちに迫る地層調査を行った。



2月29日 石垣山から小田原城



3月16~17日 上高地と西穂・丸山



3月5日 越生アルプス



3月21日 鋸山と海の幸



3月13日 ほったらかし温泉と棚山



3月23日 三浦アルプス縦走